

平成 19 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3月の天候状況】

上旬前半は移動性高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れました。上旬後半から中旬にかけては低気圧が通過した後、冬型の気圧配置となることが多く、日本海側では雪や雨の日が、また、太平洋側では晴れの日が多くなりました。下旬は低気圧が頻繁に通過し、全国的に雨や雪、曇りの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は南西諸島、東日本の日本海側及び北日本では平年より少なく、東日本の太平洋側と西日本では平年より多くなりました。降水量は北日本から東日本にかけての日本海側で平年より多く、北日本、東日本の太平洋側と西日本で平年より少なくなりました。気温は全国的に平年を上回り、東日本、西日本では多くの観測地点で平年より 1℃以上高くなりました。

【3月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報で 84%と例年^{（注）}より 1 ポイント高く、明後日予報で 82%と例年より 3 ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は北海道、北陸、九州南部地方では 5 から 6 ポイント低く、関東甲信、四国、九州北部地方では 5 から 7 ポイント高くなりました。明後日予報はほぼ全国的に例年より高く、特に関東甲信、東海、四国地方では 5 から 10 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて九州北部地方で 0.3℃大きく、北海道、関東甲信、近畿地方では 0.3℃から 0.4℃小さく、全国平均では 0.1℃小さい 1.7℃でした。また、最低気温の予報誤差は沖縄地方で例年より 0.3℃小さく、全国平均では例年と同じ 1.6℃でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の天気予報から】

寒冷前線を伴った低気圧が日本海を東へ進む場合、前線が通過する前から、西日本、東日本では南海上からの湿った空気が入り込んで雨が降りやすくなります。ところが、南西の風が吹く場合、関東地方では中部山岳から伊豆半島にかけての山が「壁」となって、ほとんど雨が降らない場合もあり、関東地方の天気予報の難しい事例となっています。3月24日もこのような気圧配置となりました。

23日17時に発表した明日(24日)の天気予報では関東南部地方の天気を、おおむね「くもり夜遅く雨」と予報しました。日本海を低気圧が東へ進み、これに伴う寒冷前線が25日の朝に通過すると予想し、24日は寒冷前線が近づいて南西の湿った空気が流れ込むため、西日本、東日本の広い範囲で雨が降るものの、関東地方では山岳の影響で雨の降り出しが遅れて夜遅くになると考えたためです。

24日は予想通り西日本から雨が降り出し、昼過ぎには東海・北陸地方まで広い範囲で雨となりました。関東地方では山岳の影響で、沿岸部を除き大部分の地域では雨の降り出しが遅れましたが、予想以上に遅くなり広い範囲で雨となったのは寒冷前線が通過した翌日25日の朝から昼にかけてでした。一方、沿岸部の神奈川県東部から東京23区、千葉県などでは、予想よりも風が南よりになったことから、東京湾を抜けて雨雲がかかり、24日夕方にとろとろで雨が降りました。このような気圧配置では、風向の微妙な違いによって山岳の影響の程度が異なってくるため雨が降る範囲や時間帯が大きく変化し、予報が難しくなります。

【5月の天気予報の利用にあたって】

5月は穏やかな晴れの日が多い反面、低気圧が発達しながら通過し、大荒れの天気となる場合もあります。また、発達した低気圧が通過しなくても、上空に北からの冷たい空気が入って大気の状態が非常に不安定になって雷雨が発生する場合もあります。5月は行楽やスポーツなど屋外で行動する機会が多くなりますが、穏やかな晴れから一天にわかにかき曇り、天気が急変してひょうが降ったり雷が落ちたりすることもありますので、警報、注意報や天気予報などの最新の気象情報をこまめにチェックすることをお勧めします。

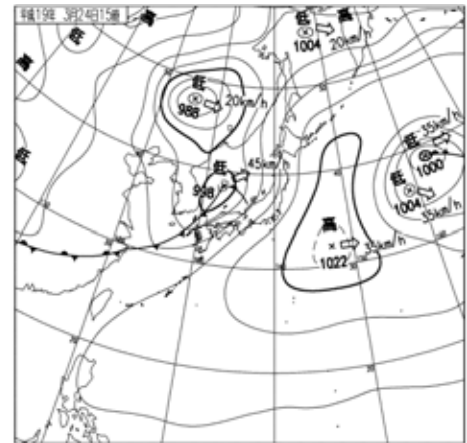


図1 3月24日15時の地上天気図

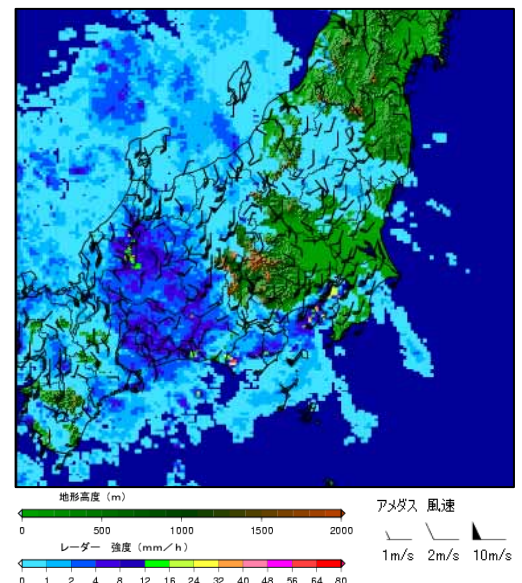


図2 3月24日15時の気象レーダーとアメダス観測値(風)